

平和とは

坂元中学校 二年 山田 美空

私が今住んでいる日本は、平和な国だと思う。人々が困らない程度の食料と水があり、住むところもある。そして欲しいものがあればお店に行つて買うこともできるし、病気になるれば病院に行つて薬をもらつて治すことができる。このような生活は私達にとつてあたりまえになつていてあまり感じることはないが、改めて日本という国は恵まれた環境にあるのだということが分かる。

その一方世界というまとまりで見ると、本当に平和といえるだろうか。そして本当の平和とは、どういうことなのだろうか。

私は数か月前に、修学旅行に行つた。修学旅行では、長崎・福岡・佐賀を訪れた。長崎では、戦後七十年を迎えて原爆を落とされた場所として、原爆・平和について学習した。

修学旅行にいく前に事前学習を重ねていた。広島・長崎に原爆が投下された日八月六日、八月九日、そして八月十五日の終戦記念日。長崎の原爆が投下された時間、午前十一時二分。原爆による死者数約七万人。このように事前学習でおおよそ分かつてはいたが、平和記念資料館内の展示物を見て驚いた。焼けて真っ黒なすすだらけになつた洋服や、全身にやけどを負つた女の子の写真などより近くで見ることによつて、原爆の恐ろしさや悲さんさを知ることができた。学習したため分かつていたと思つていたのに、初めて深く分かつたような気がした。生き残つた人も放射能の影響によつて大けがをしている人、白血病になつて今でも苦しんでいる人がいるということも知つた。この修学旅行で原爆の恐ろしさ、そして、平和であることの大切さを知ることが出来た。

今、日本は原爆を落とされることもないし、戦争が起こることもない。そして少年兵がいるわけでもない。だから、まだ平和な国だ

といえると思う。でも、このごろは大きな問題が増えつつあると思う。

四年前の三月十一日に起こつた東日本大震災。東日本大震災では、東北地方で大きな地震・津波が起きた。津波は、人・車そして、建て物までもを飲み込んでしまった。その飲み込まれていった後の町は、何一つ聞こえない静けさが漂つていて、果てしなく何もない様子が続いていた。その様子は、原爆が落とされた長崎の町に、どこか似ていると思つた。

そして、地震・津波の影響で原発事故があつた。原発事故により放射能の問題がよく報道されるようになった。放射能の恐ろしさを知っている人にとつては、とても怖かつたと思う。でも、このようなことが起こつているのは日本だけだろうか。

世界のほとんどの国は、「戦争をした」という悲しい過去があると思う。なのに、なぜ戦争を防ぐことができないのか。みんなが平和を望んでいるのではないのか。

私が思う戦争は、一人一人の心のやみが集まつて、集団というまとまりによる争いではないかと思う。それを防ぐには、まずは戦争の怖さについて知ることが大切だ。そして、一人一人が優しい心をもつことで、変わる気がする。

後、今戦争・紛争がある国に自分にできる何かをしていこうと思う。ボランティア活動や募金活動。小さなことかもしれないけれどみんながすれば大きな力に変われると思う。

戦争はだれも得をしないし、悲しいひどいものだ。世界に戦争がなくならない限り平和にはなれないと思う。「自分を大切に」、「相手も大切に」という気持ち大切にしていきたい。そして私は、世界が平和になるのを信じている。